



# 作って踊って 親しもうよ



①新聞を発行し来場者に配る高校生記者  
②「しんぶんのうた」を披露する佐藤梓さん（手前右）、ラッキィ池田さん（同左）ら＝いずれも3日午後、名古屋市熱田区の名古屋国際会議場で



三日に開幕した第二十二回NIE全国大会名古屋大会。会場となった名古屋市熱田区の名古屋国際会議場は多くの子供たちや教育、新聞関係者が訪れ、教育現場での新聞の活用法について、楽しみながら可能性を探る取り組みが始まった。①面参照

来場者の関心が集まったのは「しんぶんのうた」。「新聞の魅力を伝えた」と、岐阜県の東濃、可見地域の新聞販売店グループが、シンガー・ソングライター佐藤梓さん(20)＝同県多治見市出身＝に作詞、作曲を依頼した。さらに、新聞を読んだり折り畳んだりする動作を取り入れたダンスの振り付けを、タレントのラッキィ池田さんが担当した。

佐藤さんは園児から大人まで計四十人と、そろいの黄色いTシャツ姿でステージに登場。「ペラペラペラペラぶんぶんしんぶんぶん」と子供たちに親しみやすい、軽快なリズムの歌を披露した。来場者らは手拍子をしながら聞き入った。

一方、愛知、岐阜、三重県の高校生三十四人は協力して取材、編集した新

聞「なごやホコホコNEWS」を発行。中日新聞社の移動新聞製作・広報車「ドラゴン号」で一号と二号各二千部（A3判）を印刷し、高校生らの手で配布した。

一号は、記念講演にも登壇したノーベル物理学賞受賞者の天野浩・名古屋大教授のインタビューを掲載。二号は、初日に開催された開会式や座談会の状況を取り上げた。四日昼にも、第三号を配布する予定だ。

中心になって製作に取り組んだ中大中京高校三年の安田悠里子さん(18)は「準備してきたので、形になってうれしい」と語った。

三日夜の懇親会では、中日新聞社の白井文吾会長が「想定を大幅に上回る方に来場いただき、感謝に堪えない」とあいさつ。その後、大村秀章・愛知県知事が「新聞を教育に使う活動の前進を」と述べ、河村たかし・名古屋市長が乾杯の音頭を取った。

会場では、全国各地から集まった参加者らに、手羽先や味噌串カツ、天むす、きしめんといった「名古屋めし」が振る舞われた。